

輝いている人

ゴール後は苦しいはずだけど笑顔。そんな希望を与えられるランナーになりたい



◎プロフィール 1988年2月、西郡生まれ。総社東中で陸上を始めたが、中学では全国大会の経験はない。高校でも1年の夏までは競歩のレースに出て、走りの基本を身に付けた。全国高校駅伝・3年連続区間新記録達成/第4回世界ユース陸上競技選手権大会・女子3千m銅メダル/17年度全国高等学校総合体育大会・女子3千m優勝/第60回国体秋季大会・少年女子共進3千m優勝など

総社市教育委員会表彰を受けた

新谷仁美さん（西郡）

都大路の1区6km。全国高校駅伝の3年連続に加え、都道府県女子駅伝では、実業団選手をも抑えて4度目の区間賞を手にするなど、心・技・体ともに優れた高校生。これらの功績が認められ、2月2日、市教育委員会表彰を受けたのが、新谷仁美さん（興譲館高校3年生）だ。

スポーツ万能で、幼稚園時代からバトントワリングに夢中だった。小学校は、サッカーやバスケットボールも楽しみ、陸上を始めたのは、意外にも中学から。「小学校のころからマラソンは得意で、中学生になったら陸上部に入ろうと決めていました。自宅近くを走るとき、国分寺五重塔越しのきれいな夕日は好きでした」と目を細める。

「自分の走りをするのだけ」を自らに言い聞かせて走りました。部員全員で勝ち取った頂点。最高のクリスマスプレゼントになりました」と白い歯をこぼす。2位に大差をつけ区間新記録を樹立。笑顔でたすきをつないだ。上り坂を力強く小刻みに走る新谷さんのピッチ走法は、上下運動が少なく一流。また、場面に応じ、歩幅を長くとするストライド走法へも器用に切り換える。これは、天性のものとして所属陸上部の森政監督も舌を巻く逸材だ。

陸上を離れると、ごく普通の女子高生。高校の寮では、友人と一緒に騒いだり、勉強したりとメリハリのある高校生活を送った。卒業後は、実業団に所属。高橋尚子選手らを育てた小出監督の指導を受け、マラソンでの活躍を目指す。「総社に陸上をする子ももっと増えて欲しいです。私の走りを見て、夢や希望をもってもらえれば幸いです」と大人の表情で抱負を語る。五輪の大舞台で、新谷さんの笑顔が見られる日は近いはずだ。

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじゃ編集室（企画課）までご一報ください。自薦・他薦は問いません。

PHOTO NEWS

100歳おめでとうございます

内藤美子さん満100歳



家族から花束を受け取る内藤美子さん。お祝いの言葉かけに終始笑顔を決めませんでした

1月20日、内藤美子さん（三輪）が満100歳を迎えられたのを祝い、市や県から記念品、家族からは花束が贈られました。記念品や花束を受け取った美子さんは「(今日は)ありがとうございました」とほえみながらお礼を述べられました。美子さんは、若い時からお茶をたしなみ、師範となり多くのお弟子さんを抱えられ、活躍されてきました。よく抹茶を飲み、いつも愛想良く楽しく過ごすことを心掛けてこられたそうです。最近では、習字を書くことなどを楽しみに毎日過ごされています。

深みのある書風に心酔

総社市名誉市民高木聖鶴書展



高木聖鶴先生の作品に聞き入る観客。場内は大勢の人出で終日にぎわいました

2月4日から12日にかけて、書壇を代表する作家・高木聖鶴先生の書展が、サンロード吉備路のコンベンションホールで開催されました。今回展示された作品は、総社市に寄贈された「萬葉の歌」（愛知万博出品作品）、「朝陽」（2004年日展出品作品）など32点。会場には、現代感覚あふれる独特の書風を一目見ようと初日から大勢の観覧者でにぎわいました。この日、岡山市から訪れた女性は「細い線は針金のように力強く、自由奔放な書風は圧巻です」とじっくり見入っていました。

響け！ばちに込めた郷土愛

備中温羅太鼓コンサート



備中温羅太鼓の代表曲「温羅」。勇壮で迫力あるばちさばきに目が離せませんでした

温羅伝説をよりどころにして、郷土芸能の発展と全国への文化の発信を目指して活動している「備中温羅太鼓」。そのコンサートが2月5日、総合文化センターで行われました。まず、小学生から中学生までで構成した「温羅童太鼓」の演奏で開幕。かわいらしいばちさばきに、温かい拍手が沸きました。続く「備中温羅太鼓」は、新曲3曲を含む12曲を披露。場内にズシンと響きわたる大太鼓や軽快なばちさばきに観客は魅了されました。アンコール曲「ええとこ囃し」では、会場が一体となりました。